

海の気候変動研究の これまでとこれから

～IPCC第6次報告書とその後～

《講演題目》

海と大気の熱い関係から紐解く気候変動

時長 宏樹（九州大学応用力学研究所 教授）

気候変動と海洋観測

緒方 洋一（福岡管区気象台 気候変動・海洋情報調整官）

身近な魚の温暖化対策

榎本 めぐみ（水産研究・教育機構 水産資源研究所 研究員）

《司会進行》

岸 真弓（気象予報士・気象キャスター・防災士）

第9回 海の科学講座 *in* 九州

開催日時：2023年8月6日(日) 13:00～16:00

開催方法：オンライン開催

定員：300名

申込方法：2次元コードを撮影するか「海の科学講座」を検索して、下記URLアドレスのウェブサイトにアクセスし、申し込み様式に必要事項を入力してください。
<https://www.data.jma.go.jp/fukuoka/kaiyo/knowledge/umi-kouza.html>

申込締切：8月2日(水)

共催：福岡管区気象台、九州大学応用力学研究所、水産研究・教育機構水産資源研究所
後援：福岡県教育委員会、福岡市教育委員会、地球ウォッチャーズ-気象友の会-
問合せ：092-725-3614（福岡管区気象台 地域防災推進課 平日9時～17時）

参加無料
事前申込が必要です

海の科学講座



海の科学講座への招待

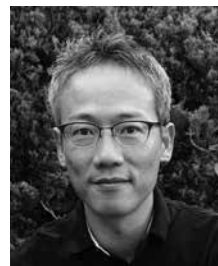
—昨年公表された気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の第6次報告書では、地球温暖化への人間の影響は「疑う余地がない」と、強い表現となっています。その地球温暖化の熱の9割を海が吸収していると推定されています。今回の講座では、地球温暖化に海がどのように関わっているのか？、海の温暖化をどのように観測しているのか？、さらには温暖化の進む九州の海に暮らす生き物について専門の先生方に解説頂きます。

講座内容・紹介

『海と大気の熱い関係から紐解く気候変動』

講師：時長 宏樹（九州大学応用力学研究所 教授）

「地球温暖化」と聞けば、地球の至る所で温度が上昇すると思うかもしれませんが、しかし、その温度の上がり具合は世界的に見ると場所によって大きく異なります。また、地球温暖化の影響は、温度だけにとどまらず、海流や海面高度、さらには雨や風など、海と大気の様々な物理過程に影響を及ぼします。これらの将来変化には、海と大気の相互作用が重要な役割を果たしているのです。本講座では、過去の観測データやIPCC第6次評価報告書における気候モデルの数値シミュレーション結果などを紹介し、気候の将来変化における海の役割を解説します。



『気候変動と海洋観測』

講師：緒方 洋一（福岡管区気象台 気候変動・海洋情報調整官）

地球温暖化の影響は、極端な高温や大雨の頻度の増加だけでなく、海面水温の上昇や海洋酸性化など海へも及んでいます。このような地球温暖化の影響を評価するためには、長い期間におよぶ正確な観測が欠かせません。今回は、地球温暖化に関する研究にも利用されている、船舶や衛星、ブイなどを用いた気象庁の海洋の観測について紹介いたします。



『身近な魚の温暖化対策』

講師：榎本 めぐみ（水産研究・教育機構 水産資源研究所 研究員）

日本は海に囲まれており昔から水産資源を利用してきました。九州では古くからまき網漁業が発達しており、マアジやマサバ、マイワシなど大衆魚と呼ばれる魚を多く漁獲して利用してきました。しかしながら、これらの身近な魚の資源量（海にいる魚の量）が大きく変動していることはあまりよく知られていません。過去に例のないほど海の水温が温暖化している現在、彼らがどのように生きているのかを分かりやすく説明したいと思います。



司会進行



岸 真弓（気象予報士・気象キャスター・防災士）

プロフィール：群馬県出身。学習院大学文学部卒業。気象予報士、防災士。日本気象協会に所属した後独立。現在、気象キャスターとして、テレビ・ラジオに出演。防災についての講演など、精力的に活動。野菜ソムリエなどの資格も持つ。



問い合わせ：092-725-3614(福岡管区気象台 地域防災推進課 平日9時～17時)

共 催：福岡管区気象台、九州大学応用力学研究所、水産研究・教育機構水産資源研究所

後 援：福岡県教育委員会、福岡市教育委員会、地球ウォッチャーズ - 気象友の会 -

ホームページ：福岡管区気象台 | イベント <https://www.data.jma.go.jp/fukuoka/kaiyo/knowledge/umi-kouza.html>

九州大学応用力学研究所 | イベント <https://www.riam.kyushu-u.ac.jp/research/research-events.html>